

三ツ沢公園球技場の屋根かけ改修について

- 三ツ沢公園球技場のスタンドへの屋根かけについては、現在のメインスタンドへの屋根かけではなく球技場全体を建替える方向で引き続き検討を進めていきます。
- Jリーグの試合を継続しながら、建替えができる方法についても検討を行います。

1. 現在のメインスタンドへの屋根かけについて

課題1 屋根を既存のスタンドと別構造で設置する場合も、現行法令に適合していない箇所の既存スタンドの一部改修が法令上必要となります。

【適合させる必要のある法令】

- ・建築基準法、市建築基準条例
- ・市火災予防条例
- ・バリアフリー法

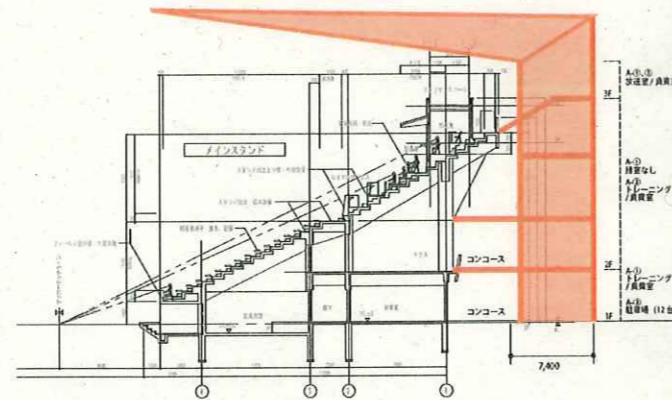
【改修が必要な箇所】改修コスト：約 〇〇〇〇円 + メインスタンド屋根かけ約 〇〇〇〇円 合計：約 〇〇〇〇円

- ・観客席のいす背の間隔の改修、階段の幅・蹴上の改修、エレベーターの設置 など

【改修期間】3年程度

課題2 メインスタンドは築55年であり、改修をしても近い将来建替えが必要となります。
(鉄筋コンクリート造の構造物の耐用年数は一般的に70年)

課題3 運営本部室(100m²に対し77m²)・医務室(50m²に対し37m²)等の運営上必要な諸室やVIP席(50席に対し24席)の不足の解消、質の高い飲食・物販等のホスピタリティ機能の向上が求められています。



2. サイド・バックスタンドの建替えについて

課題1 現在のスタンドは築27年ですが、かつての基準で整備された観客席の快適性の不足やトイレ、入場ゲート等の不足、質の高い飲食等のホスピタリティ機能の向上が求められています。



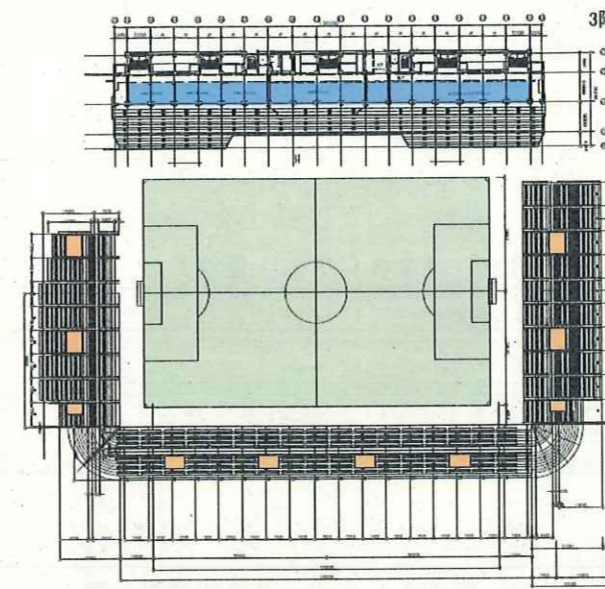
背もたれやドリンクホルダーのない狭い座席(バックスタンド)



コンコースの仮設的な飲食施設(バックスタンド)

1・2を踏まえ、メインスタンドとともにサイド・バックスタンドを含めた球技場全体を建替える方向で検討を進めます。

○球技場全体の建替えイメージ(案)



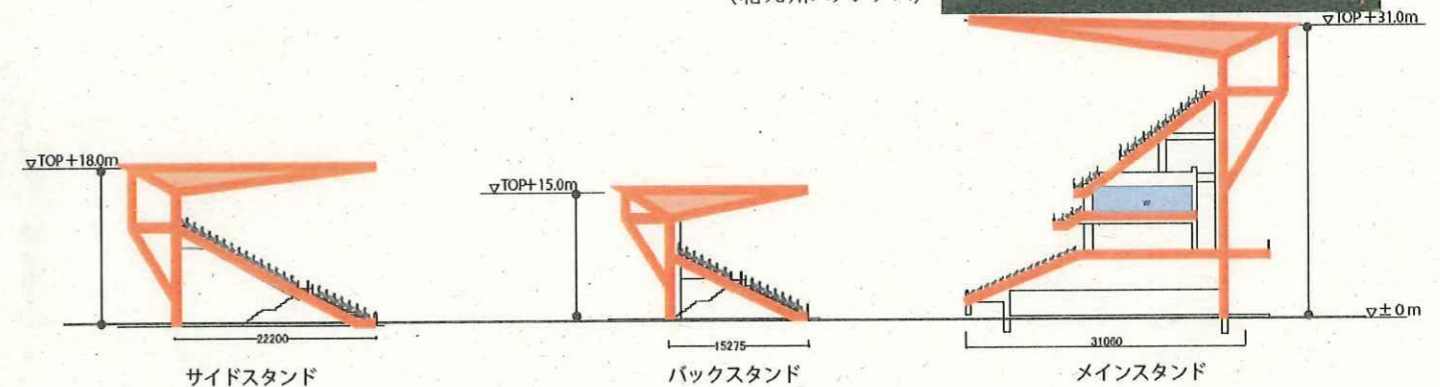
計画平面図(案)(全体建替え)

(検討状況)

スタンド	メイン 31.0m (現状 14.95m)
高さ	サイド 18.0m、バック 15.0m (現状 8.6m)
日影	OK
客席数	〇〇〇〇席程度 (現状 15,400席)
コスト	約 〇〇〇〇円 ※メインのみ約 〇〇〇〇円



メインスタンドイメージ
(北九州スタジアム)



○建替えイメージ



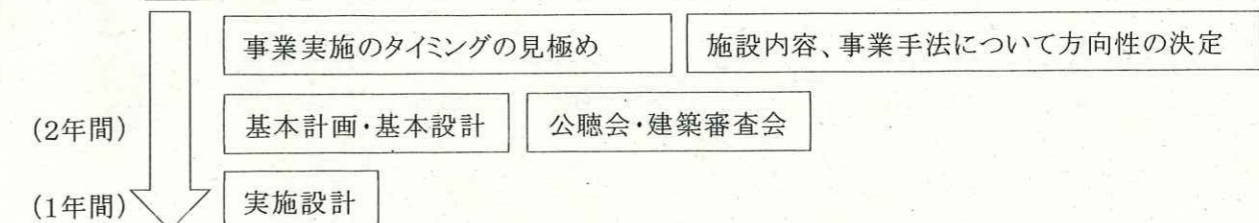
大阪市 長居球技場(桜スタジアム)



長野市 南長野運動公園総合球技場

○今後のスケジュール

R3年度 利用団体等との調整、Jリーグの試合を継続しながら、建替えができる方法の検討
R2年度の検討結果を踏まえ、計画の具体化に向けた構造、工法、工事費、事業手法の検討



(参考)

1. 三ツ沢公園球技場の概要

スタンド	竣工年【築年数】	耐用年数	観客席数	屋根
メインスタンド	昭和 39 (1964) 年【築 55 年】	70 年【あと 15 年】	5,536 席	なし
サイド・バックスタンド	平成 4 (1992) 年【築 27 年】	70 年【あと 43 年】	9,864 席	なし

2. 球技場の改修の主な条件

① Jリーグクラブライセンス交付規則〔施設基準〕[2019124 改正] 【スタジアム：屋根】

B 等級	(1) スタジアムの屋根は、観客席の 3 分の 1 以上が覆われていなければならない。
C 等級	(2) 前項にかかわらず、スタジアムの屋根は、すべての観客席を覆うことが望ましい。

※B 等級：基準を満たせないと、クラブライセンスは交付されるものの、制裁対象となる

C 等級：将来的に必須となる可能性がある <制裁内容>HP での公表、改善策もしくは構想の提出

② Jリーグスタジアム基準 [2020 年度用]

J1・J2 基準	新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則としてすべての観客席を覆うこと
----------	--

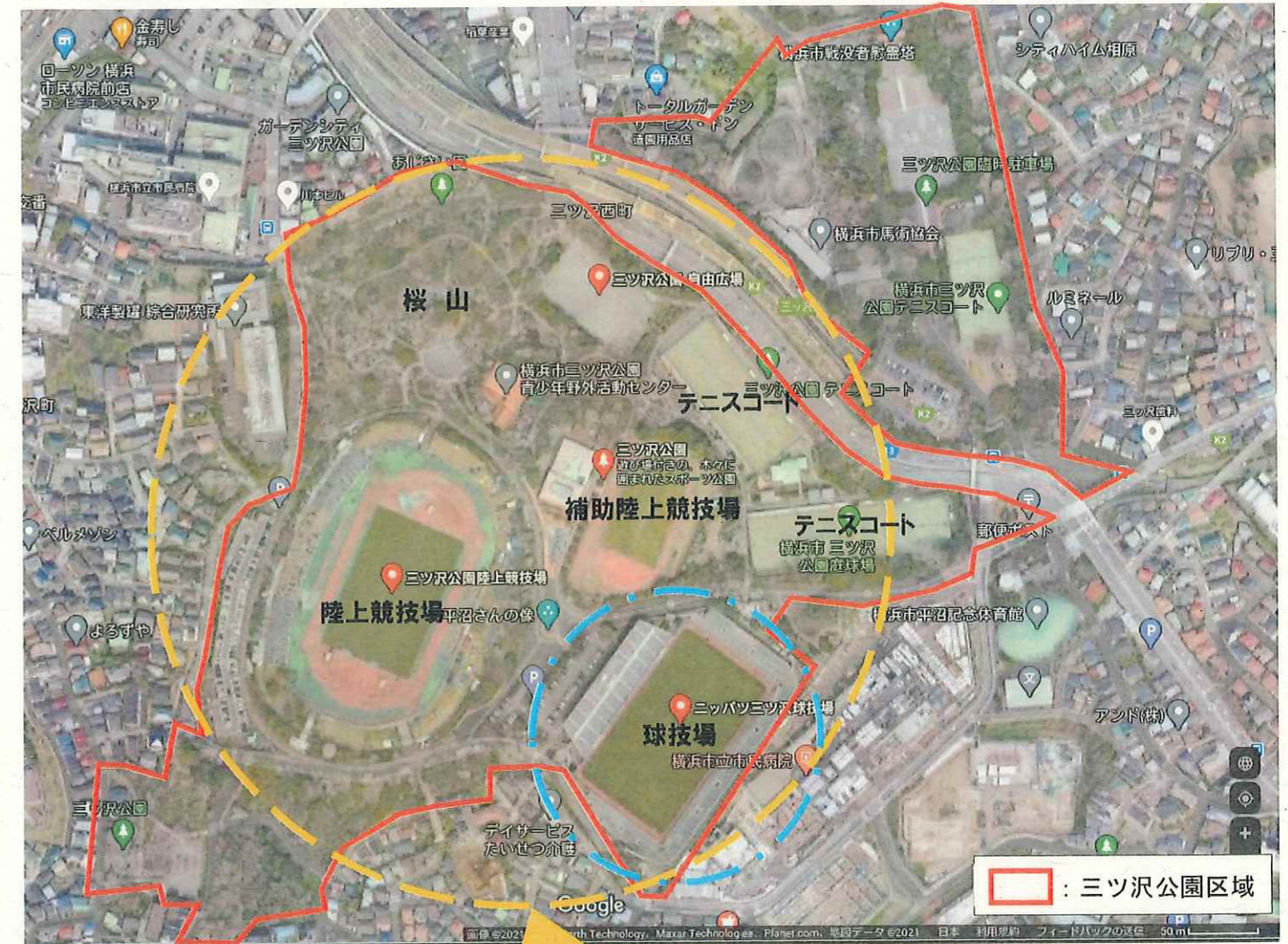
三ツ沢公園球技場メインスタンドへの屋根掛けについて

- 既存メインスタンドに屋根掛けをする方法は、屋根だけでも約 〇〇〇〇〇〇〇〇 円の事業費が必要となり、築 57 年のメインスタンドの建替えに近い将来必要になります。サイド・バックスタンドも築 29 年であることから、球技場全体を建替える案を検討していきます。
- いずれの場合も、Jリーグの観客収容数の一時的な減少等の影響があります。
- 球技場全体の建替えに合わせて、民間のノウハウ、資金を活用しながら公園全体の再整備を行うことについても検討していきます。

1. 令和2年度の検討内容

選択肢	既存メインスタンドに屋根のみを付加	既存メインスタンドに別構造で屋根を設置	メインスタンドのみを建替え	球技場全体を建替え
	既存メインスタンド	メインスタンド増築	メインスタンド撤去・新設	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・既存メインスタンドは昭和 39 年竣工（築 57 年）の建築物であり、構造的に屋根のみを付加することは法令上不可 ・事業費：－ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存メインスタンドは築 57 年であり、近い将来建替えが必要 ・既存メインスタンドと別構造であっても、現行法令に適合していない箇所の一部改修が法令上必要 ・事業費：約 〇〇〇〇〇〇 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存サイド・バックスタンドは平成 4 年建替（築 29 年）であり、特に観客席の様・快適性等のホスピタリティー機能が不十分でその更新・向上が必要 ・事業費：約 〇〇〇〇〇〇 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな時代に即した魅力的なスタジアムや試合環境、観戦環境を提供可能 ・事業費：約 〇〇〇〇〇〇 円
	×	×	△	○

＜三ツ沢公園全体平面図＞

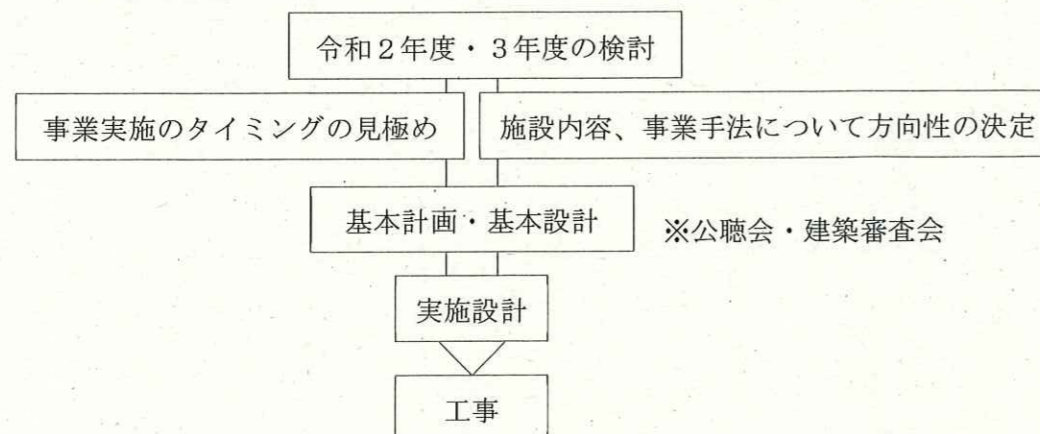


民間のノウハウ、資金を活用した公園全体の再整備の検討

2. 令和3年度の検討内容

- ・計画の具体化に向け、工法、財源確保、事業手法、工事中のJリーグ等の利用者への対応、球技場全体の建替えに合わせた公園全体のリニューアル等を検討

3. 今後の球技場建替えスケジュール（予定）



三ツ沢公園球技場改修プロジェクト検討状況報告

1. 三ツ沢公園陸上競技場の位置に球技場を整備することについて・・・別紙1
2. 今後の検討内容について・・・別紙2
3. 市立吹田サッカースタジアム（パナソニックスタジアム吹田）について・・・別紙3

2. 三ツ沢公園陸上競技場の位置に球技場を整備することについて

(1) 3競技場の利用状況(コロナ禍以前の令和元年度、大会準備日等を含む)

①三ツ沢公園陸上競技場

	日数	利用日	内訳
土日	104日	99日	(トラック) 大会・記録会 54日
			(トラック) その他 19日
			(フィールド) J3、なでしこ 6日
			(フィールド) その他 20日
平日	262日	151日	(トラック) 大会・記録会 18日
			(トラック) その他 57日
			(フィールド) マリノス練習日 44日
			(フィールド) その他 20日

②日産スタジアム

	日数	利用日	内訳	(日数)-(利用日)
土日	104日	84日	(トラック) 国際大会等 5日	20日
			(トラック) その他 27日	
			(フィールド) J1・代表戦、国際大会等 44日	
			(フィールド) その他 8日	
平日	262日	170日	(トラック) 国際大会等 14日	92日
			(トラック) その他 79日	
			(フィールド) J1・代表戦、国際大会等 75日	
			(フィールド) その他 2日	

③日産フィールド小机

	日数	利用日	内訳	(日数)-(利用日)
土日	104日	95日	(トラック) 国際大会練習等 5日	9日
			(トラック) その他 18日	
			(フィールド) マリノス練習 26日	
			(フィールド) なでしこ 4日	
			(フィールド) 国際大会練習等 7日	
			(フィールド) その他 11日	
平日	262日	184日	(トラック) 国際大会練習等 9日	78日
			(トラック) その他 101日	
			(フィールド) マリノス練習 62日	
			(フィールド) 国際大会練習等 9日	
			(フィールド) その他 1日	

(2) 三ツ沢公園陸上競技場を廃止した場合の新横浜公園での受入の問題点

○土日の利用状況

- ・三ツ沢公園陸上競技場の土日利用(99)の受け入れが必要
(最低限陸連の公認が必要と考えられる大会・記録会(54)の受け入れが必要)

→日産スタジアム(20)、小机(9)の空枠では受け入れられない

※空き日程への受入については、芝生管理作業や養生期間を考慮していない。

○マリノスの練習

- ・マリノスの練習(44)は、かつて日産フィールド小机・球技場で実施していたが、利用頻度が高く、芝生の育成に影響が発生したため、三ツ沢公園陸上競技場へ練習場を分散させた経緯があることから、新横浜公園以外の受入先が必要

(3) 横浜市スポーツ協会へのヒアリング(6/9)結果

- ・現在の陸上競技場の利用頻度はとても高い。
- ・市内の第2種公認競技場は三ツ沢公園陸上競技場1か所であり、これまで定期的に利用している大会へ代替施設をあてるのが困難である。
- ・陸上競技場での大会時に補助陸上競技場が活用されており、セットで使われる施設となっている(なくなった場合には、園内の混乱が予想される)。

→ 三ツ沢公園陸上競技場を廃止した場合、新横浜公園で受け入れることは困難である。そのため、陸上競技場の位置に球技場を整備する案は、実現困難である。
 ・また、陸上競技場と兼用の球技場を整備する案も、土日利用の重複や整備中の大会の受入ができないため、実現困難である。

(参考1) 主な陸上競技団体

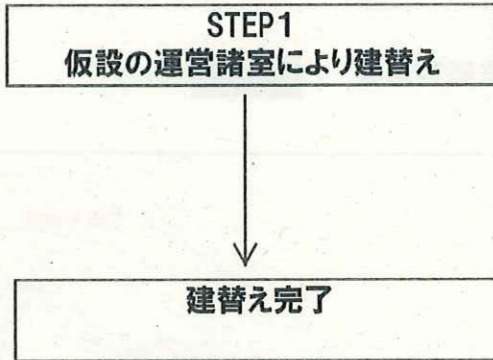
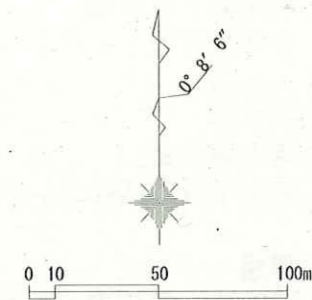
- ・横浜市陸上競技協会、各区体育協会
- ・一般財団法人神奈川陸上競技協会
- ・横浜市立小学校体育研究会
- ・横浜市中学校体育連盟、神奈川県中学校体育連盟、神奈川県私立中学校体育連盟
- ・横浜地区高等学校体育連盟、神奈川県高等学校体育連盟 など

(参考2) 市内において大会利用が可能な陸上競技場

三ツ沢公園陸上競技場	日産スタジアム	日産フィールド小机
○第2種公認競技場	○第1種公認競技場	○第3種公認競技場
○全天候型トラック (400m・8レーン)	○全天候型トラック (400m・9レーン)	○全天候型トラック (400m・8レーン)
○フィールド:天然芝 (106m×69.5m)	○フィールド:天然芝 (106m×72m)	○フィールド:天然芝 (107m×71m)
○観客席(メインスタンド) :5,413席、その他芝生席 (全体収容人員 18,300人)	○観客席:約70,000席	○観客席:約500席 (周囲から観覧されてしまうため、現状は興行は不可)
○補助陸上競技場あり	○雨天練習用走路あり	

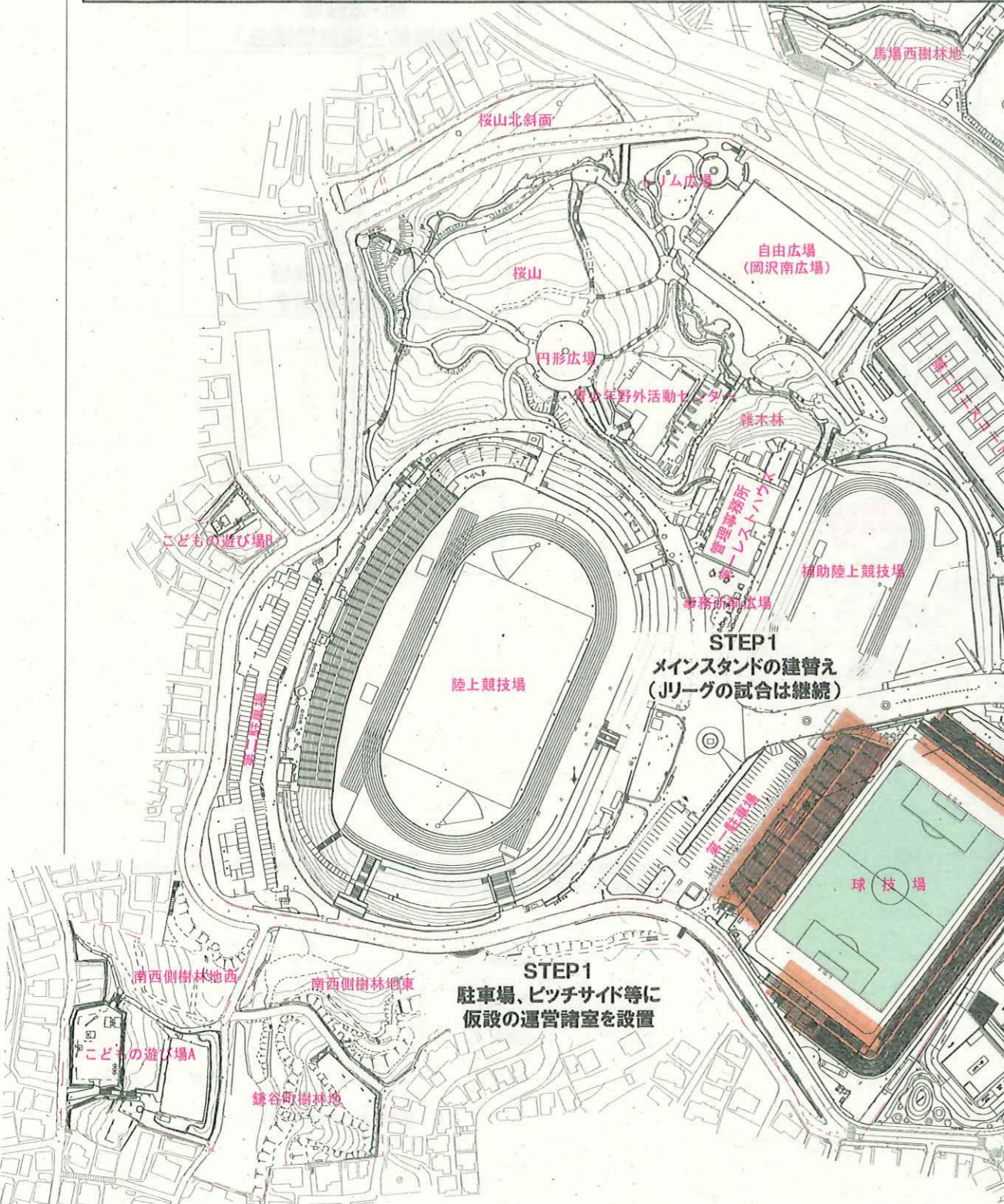
仮設の運営諸室の設置による現位置での建替えの検討

- (1) 影響を受ける施設
球技場のみ
【ステークホルダー】
【横浜FC、球技場利用団体など】
 - (2) 課題
① 駐車場、ピッチサイド等を利用した仮設により、Jリーグの試合開催が必要
 - (3) 将来観客席数 人程度
- (参考) 同様の手法による建替えの実績
 ・ サッカー専用球技場での実績は不明
 ※ 陸上競技場と兼用の球技場では、等々力陸上競技場（川崎フロンターレ）で、2シーズンを仮設のメインスタンドで実施している



※ H21測量区域(任意座標：子供の遊び場A・B)及びH26測量区域(座標グリッドあり)以外は、既存資料を基に作成した図であり測量図ではありません。

公園名	三ツ沢公園		
所在地	神奈川県三ツ沢西町3-1		
図面名	番号		
年月	平成27年12月	縮尺	1:500
横浜市環境創造局公園緑地維持課			



補助陸上競技場との入替えによる建替えの検討

(1) 影響を受ける施設

- ①補助陸上競技場
- ②管理事務所、レストハウス
- ③テニスコート
- ④雑木林
- ⑤陸上競技場
- ⑥青少年野外活動センター

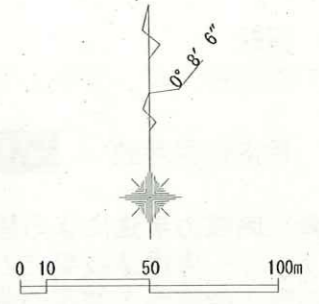
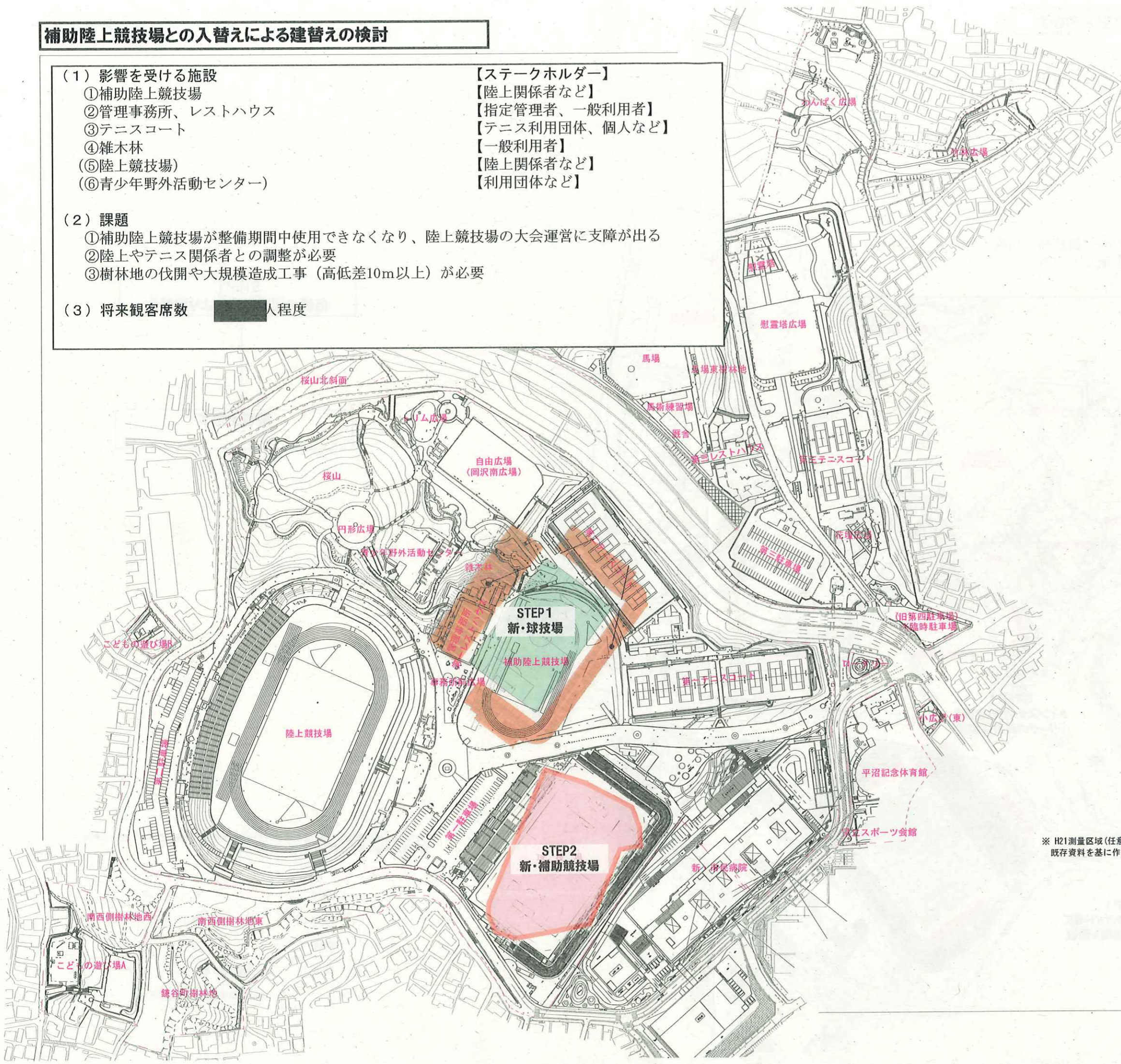
【ステークホルダー】

- 【陸上関係者など】
- 【指定管理者、一般利用者】
- 【テニス利用団体、個人など】
- 【一般利用者】
- 【陸上関係者など】
- 【利用団体など】

(2) 課題

- ①補助陸上競技場が整備期間中使用できなくなり、陸上競技場の大会運営に支障が出る
- ②陸上やテニス関係者との調整が必要
- ③樹林地の伐開や大規模造成工事（高低差10m以上）が必要

(3) 将来観客席数 人程度



※ H21測量区域(任意座標：子供の遊び場A・B)及びH26測量区域(座標グリッドあり)以外は、既存資料を基に作成した図であり測量図ではありません。

公園名	三ツ沢公園		
所在地	神奈川県三ツ沢西町3-1		
図面名	番号		
年月	平成27年12月	縮尺	1:500
横浜市環境創造局公園緑地維持課			

1 施設の位置づけ

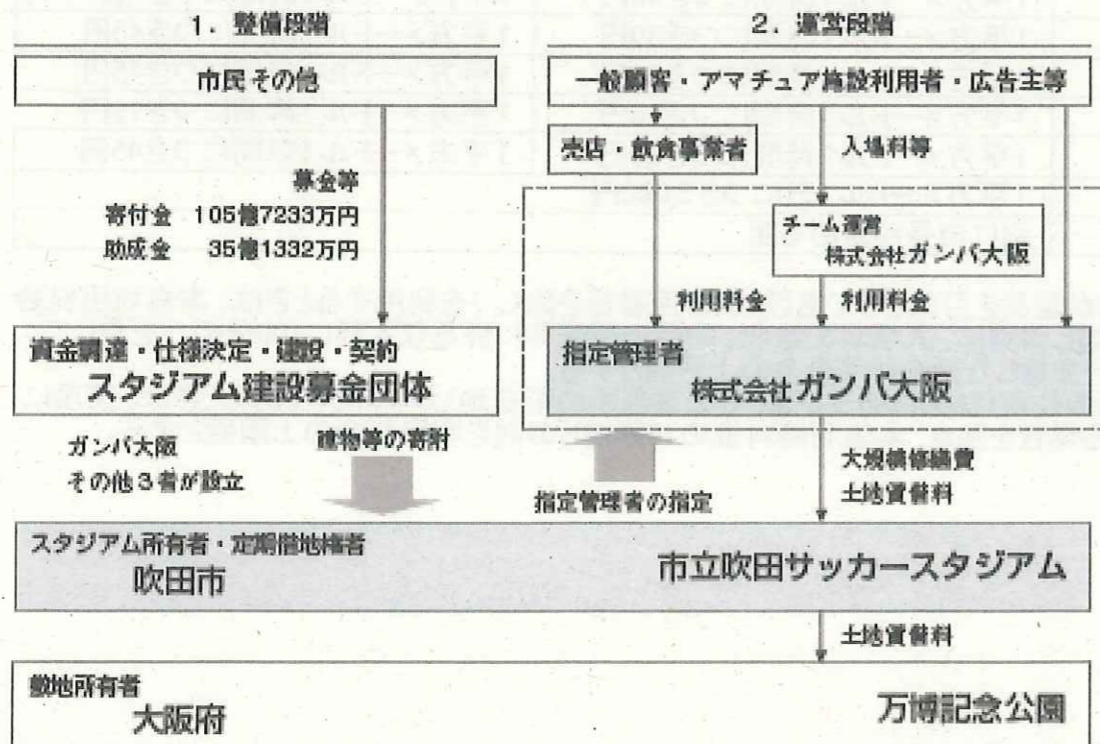
- ・土地は万博記念公園（条例設置公園）の管理者である大阪府から吹田市が50年の契約で有償借受
- ・施設（スタジアム）は吹田市の条例設置の公の施設（行政財産）

→土地賃借料は指定管理者（ガンバ大阪）が吹田市を通じて府に支払っている。

ガンバ大阪は土地と施設を持たないことで固定資産税を払っていない



2 事業スキームの概要



3 事業スキームの特徴

(1) スタジアム建設募金団体

- ・(株)ガンバ大阪、関西経済連合会、日本サッカー協会、日本プロサッカーリーグが設立
- 企業が行う寄付手続きでは企業の損金算入は認められるが、一般市民の寄付金控除は認められなかった。
- また、一般市民・企業を含めた多くの方に賛同をいただくために募金団体を設立。
- ・募金額 105 億円（内訳：パナソニック約 7 割、他企業 720 社約 3 割、個人 6 億円）+ 助成金 35 億
- ・募金開始 H24 年 4 月～H27 年 3 月

(2) 建設

- ・スタジアムの設計、施工等において吹田市は一切関与していない。
- Jリーグの基準を満たすものであれば完成したスタジアムの寄付を受けるという立場。
- ・募金団体は一部停止条件付工事請負契約により、募金額に応じた工事を担保している。
- 募金が集まれば寄付をする必要があり、スタジアム建設を取りやめることはできないため、一部停止条件付工事となった。
- ・当初工事契約額は 124 億円（工事契約時点募金等額 106 億円）、募金期間を延長して最終事業費 140 億円。
- ・工期 H25 年 12 月～H27 年 9 月、その後内装工事等により H28 年 2 月こけら落とし

(3) 管理

- ・非公募、指定管理期間 47 年 6 か月の指定管理者制度により運営（指定管理者：(株)ガンバ大阪）
- 土地の借地期間 50 年から工事等期間 2 年 6 か月を引き、47 年 6 か月としている。
- スタジアム設置条例（H27.8）で「スタジアムの設置目的を最も効果的に達成することができる」と認められる法人を指定管理者として指定する（第 4 条第 2 項）と規定し、『「スタジアム設置目的を最も効果的に達成することができる」と認められる法人」とあるのは、「株式会社ガンバ大阪」とする』（附則）と明記。
- 「スタジアムの建設及び管理運営に関する基本協定書」（H23.11）において、「甲（市）は寄付を受けた施設の管理運営については、施設の設置条例の制定等に係る議決を経て、丙（株)ガンバ大阪）を指定管理者に指定し、これを行わせるものとする」と記載（協定の効力は寄付受納の議決（H23.12）が停止条件）
- ・吹田市からの指定管理委託料の支出はなし
- 日常の管理運営、大規模修繕費、土地賃借料等については、指定管理者の負担。
- ガンバ大阪が算出した維持管理経費をもとに利用料を算出している。
- ・Jリーグ等の試合数は年間 40 試合にしている。コンサート等は実施していない。（自主規制）
- 芝の育成を考えると 30 試合程度が妥当。当初 10 年で張り替え予定に対して 2 年で張り替えている。

(4) 長期修繕

- ・指定管理者（ガンバ大阪）が毎年 1 億 5 千万円を市に支出し、スタジアム積立基金（H28.3）に積立てている。（50 年で 76 億円）。
- ・ガンバ大阪が継続できなくなった際は、この基金から費用を捻出し施設を更地にする事となっている。
- R2 年 3 月に基本協定を変更し、不可抗力による半壊に満たない損傷の修復費用については、1 億円（税抜き）までは指定管理者、1 億円を超える部分は市が負担することに変更している。（裏面あり）

【参考】(1) 写真



① 全体写真 (全面屋根かけ、ピッチまでの距離7m)



② 芝育成のため、南側の屋根を一部ガラス化、通風口の設置

※当初は10年に1回の芝生張替えを想定していたが、屋根があることによる日照不足で、2年に1回張替



[画像のクリックで拡大表示]

VIPエリアのラウンジ。このスタジアムを特徴付ける空間の一つだ。券金の受付を締め切ったのは2015年3月だが、その3カ月前の14年12月末時点では、資金が足りずVIPエリアはつくれないという状況だった(写真:生田将人)

③VIP ラウンジ

(2) 収支関係資料

表 吹田サッカースタジアムの経常損益 (2018年度)

単位:百万円	指定管理者	吹田市	合計
経営収益	840	422	1,262
プロ興行利用料	216	-	
料金低減負担金	108	-	
ガンバ納付金	-	201	
ネーミングライツ	-	216	
経営費用	664	766	1,430
人件費	x	30	
市への負担金	201	-	
地代	-	151	
料金低減負担金	-	108	
減価償却費	-	449	
経営利益	176	▲344	▲168

出所:吹田市政コスト計算書、指定管理者事業報告書から大和工ナジー・インフラ作成。指定管理者の経常費用内訳は非開示

※R2年度指定管理者収支 収入 533,158,237円 支出 524,241,853円

市立吹田サッカースタジアム条例

別表(第8条関係)

スタジアム利用料金

施設の名称	金額	
	午前9時から午後9時までの時間帯	午前9時から午後9時までの時間帯以外の時間帯
グラウンド	1時間につき55,000円	1時間につき82,500円
観客席及びコンコース	1時間につき60,000円	1時間につき90,000円
コンコース	1平方メートル1時間につき10円	1平方メートル1時間につき15円
更衣室	1平方メートル1時間につき90円	1平方メートル1時間につき135円
特別室	1平方メートル1時間につき90円	1平方メートル1時間につき135円
レストラン	1平方メートル1時間につき30円	1平方メートル1時間につき45円
売店	1平方メートル1時間につき30円	1平方メートル1時間につき45円
駐車場	1平方メートル1時間につき10円	1平方メートル1時間につき15円
その他諸室	1平方メートル1時間につき30円	1平方メートル1時間につき45円
広告用看板	1平方メートル1日につき5,000円	
附属設備等	別に市長が定める額	

備考

- 1 利用者が営利を目的として施設(広告用看板を除く。)を利用するときは、本表利用料金の20割増しの額に、入場料の徴収、物品の販売等に係る収入額に100分の15を乗じて得た額を加算した額を利用料金の上限額とする。
- 2 利用者の住所(法人にあっては、その事務所の所在地)が本市外であるときは、前項に規定する場合を除き、本表利用料金の10割増しの額を利用料金の上限額とする。

ニッパツ三ツ沢公園球技場の改修について

- ・三ツ沢公園内の三ツ沢公園球技場（1964年竣工、1992年改築）は、ホームスタジアムにしている横浜FCをはじめ、6つのスポーツチームが試合会場として使用しています。
 【J1】横浜Fマリノス、【J3】Y.S.C.C.横浜、【なでしこリーグ】ニッパツ横浜FCシーガルズ、日体大FIELDS横浜、【ジャパンラグビーリーグワン】横浜キャノンイーグルス
- ・また、高校サッカーなどサッカーの聖地として多くの大会にも利用されています。
- ・施設の古さなどから特にJリーグのスタジアム基準を満たしていません。
 （「観客席の3分の1以上が屋根に覆われていなければならない」、「新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則としてすべての観客席を屋根で覆うこと」）。
- ・横浜FCのJ1昇格を契機に観客席への屋根かけについて検討を進めています。

1. 横浜FCの来訪

令和元年12月：横浜FCの市長表敬訪問時に、三浦知良選手が球技場への屋根の設置を要望
 令和2年2月：横浜FCの2度目の市長表敬訪問時に、市長が屋根かけについて「検討ですがやらせていただきます」と回答
 ※報道各社は「屋根設置をやります」という趣旨で報道

2. これまでの検討経過

- ・R2年度の検討結果として、既存の観覧スタンドへの単純な屋根かけは難しく、球技場全体の建替えが必要であることがわかりました。（既存スタンドが現行法令に適合していないため、法令上不可）
- ・R3年度は、球技場の建替えについて、①現位置での建替え、②三ツ沢公園内の別位置での建替えの2案で検討し、改修内容の基本的な方向性をまとめる予定です。

3. 検討の留意点

- (1) 都市計画法、建築基準法等の法令上の制限があります。
 （球技場の高さ制限、用途の制限等があり、公聴会・建築審査会の審査が必要）
- (2) Jリーグの試合数（年間約40日）をできるだけ確保しながら建替えができる方法等を検討する必要があります。
- (3) 球技場を利用するJリーグ以外の団体の利用に配慮する必要があります。
 （現在はJリーグを含めて年間100日程度）
- (4) 球技場以外の施設を利用している団体（陸上やテニス）にも調整が不可欠です。
- (5) 新設する球技場の全ての観客席に屋根かけすると、芝生の生育環境への影響により、利用可能日が年間40日程度に減少する見込みであり、球技が可能な他の場所を確保する必要があります。
- (6) 整備費（概算 〇〇〇〇円程度）を確保する必要があります。

4. その他（公民連携等）

- (1) 公の施設、都市公園施設であることから現状の市民利用を一定程度確保する配慮が必要です。
- (2) 民間事業者の参入には、公平性・透明性のあるプロセスが必要です。
- (3) 特別な条件を付して建設・運営等を認める（負担付き寄附）には、議会承認が必要です。

市長説明資料
 令和3年10月15日
 環境創造局



（裏面参考資料）

(参考1) これまでの市会答弁

市会日程・質問者	答弁
R1.12月 一般質問 ・遊佐議員(自民党) 「三ツ沢公園球技場の改修を行うべき」	市長：先日、横浜FCがJ1昇格をした折に来られて、三浦（知良）さんが屋根かけについてご要望されました。屋根かけについては、高さ制限の緩和や工法の精査など、実現に向けての課題を整理するとともに、関係者の皆様ともご相談し、検討していきます。
R2.3月 局別審査 ・長谷川(琢)委員(自民党) 「球技場の屋根設置に向けた令和2年度の検討内容」	局長：法令上の取り扱いの整理に加え、屋根の形態や構造、工法の検討、また、メインスタンドの建替えなどに関しても検討を行います。さらに、改修を行うためのコストや公民連携手法などについても、関係者の皆様とご相談しながら、幅広く検討していきます。
R3.3月 局別審査 ・川口委員(自民党) (1)「球技場改修に向けた令和2年度の検討状況」 (2)「令和3年度の検討内容」 (3)「再整備にあたっては公園全体のリニューアルを検討すべき」	(1) 局長：メインスタンドの建替えや球技場全体の建替えなど、幅広く検討していく必要がある状況です。 (2) 局長：計画の具体化に向けまして、これからの時代に求められる球技場の形態や仕様、工事期間中のグラウンド利用者への対応、そして、今、先生からも色々お話しがございました、公民連携等も含め、どのような事業手法が考えられるのか、全国のスタジアムなど先進事例も参考にしながらしっかりと検討を進めます。 (3) 副市長：球技場全体を改修するということになりますと、当然利用調整の問題とか、公園全体といったことも見極めていかなければいけないと思っておりますので、今申しあげたような視点を基本にしながら、公園全体のリニューアルも含め、様々な選択肢を幅広く検討しながら、三ツ沢公園球技場の改修の内容について今後検討していきたいと思っております。
R3.5月 一般質問 ・伊波議員(自民党) 「球技場の改修に向けた今年度の取組」	副市長：改修に必要な法的、構造的な要件を整理し、メインスタンドの建替え及び球技場全体の基本的な改修の方向性を取りまとめます。さらに、公園全体のリニューアルや、施設整備及び運営における民間活力の導入などについても検討を進めていきます。

(参考2) 三ツ沢公園諸元

- 面積：286,976m² ○所在地：三ツ沢西町3-1
- 公園種別：運動公園 ○公開年月日：昭和24年10月25日
- 運動施設：ニッパツ三ツ沢球技場、陸上競技場（第2種公認）、補助陸上競技場、テニスコート、馬術練習場、平沼記念体育館、県立スポーツ会館 など
- その他の施設：桜山（市内有数の花見の名所）、トリムコース、青少年野外活動センター、横浜市戦没者慰霊塔 など
- その他：国体やオリンピック東京大会（昭和39年）のサッカー会場としても使用されました。
- 案内図：



三ツ沢公園再整備計画の方向性について

三ツ沢公園全体の再整備計画において、既存の球技場を当面の間、暫定的に存置し、
全面屋根掛けの新たなスタジアムを新設します。

1. この方向性に至った経緯

- ・現状、横浜FCをはじめとする6つのスポーツチーム、高校サッカー等の大会により、年間100日程度が利用されています。
- ・新設する球技場の全ての観客席に屋根掛けすると、芝生の生育環境への影響により、利用可能日が年間40日程度に減少する見込みです。当面の間、市内で球技が可能な他の場所の確保は困難です。
- ・年間60日程度の既存利用を確保するためには、深谷通信所跡地等の新たな場所に必要な施設が整備されるまで、暫定的に既存の球技場を存置する方法しかありません。

2. 実現に向けた課題

(1) 法令上の制約

都市計画法上、「観覧場」の建設が制限されており、暫定的に2つの球技場（観覧場）が存在すること等について、公聴会を経て、建築審査会の同意が必要です。

(2) 県警協議

新スタジアムには隣接駐車場が必要であり、新横浜通りから駐車場に入る動線についての県警協議が難航する可能性があります。

(3) 他の施設への影響

- ①補助陸上競技場の縮小：第2種公認陸上競技場であるため、陸連との協議が必要です。現在、トラックは年間170日程度（個人利用除く）、フィールドは横浜Fマリノスの練習（年間40日程度）を含む年間80日程度の利用があり、関係者調整が必要です。
- ②第二テニスコート（6面）の廃止：三ツ沢公園は市内最大のコート面数（同時利用で18面）を持ち、日常利用、大会利用と非常に多くの利用（年間稼働率約92%、年間利用者約15万人）があります。
- ③青少年野外活動センターの移転：こども青少年局が運営しています。令和元・2年度に公共建築物天井脱落対策工事や炊事場上屋増築工事を実施しています。
※昭和56年竣工（耐用年数70年）、災害時は他都市応援職員等の宿泊施設として使用
- ④自由広場の縮小：地域のサッカー、少年野球の団体利用のほか地域住民等が利用しています。
- ⑤関連整備費の増加：新スタジアム建設（約●●●円）のほか、公園基盤整備、補助陸上競技場、野外活動センターの移転費用など、約●●●円程度が必要です。

(4) 公民連携

スタジアム新設への民間事業者の参入には、公平性・透明性のあるプロセスが必要です。

3. スケジュール



(裏面あり)

4. 関係するステークホルダー

(1) 既存球技場関係者

① 6つのスポーツチーム

【J1】横浜Fマリノス、横浜FC、【J3】Y.S.C.C.横浜

【なでしこリーグ】ニッパツ横浜FCシーガルズ、日体大FIELDS横浜

【ジャパンラグビーリーグワン】横浜キャノンイーグルス

② 高校サッカー等の大会関係者

③ ニッパツ（ネーミングライツ）

(2) 補助陸上競技場関係者

① 陸上利用団体

② 横浜Fマリノス（練習場として利用）

③ 少年サッカー団体

④ 日本陸連（陸上競技場の認定）

⑤ 一般利用者

(3) テニスコート関係者

① テニス利用団体

② 一般利用者

(4) 青少年野外活動センター関係者

① 利用者

② 指定管理者

(5) 自由広場関係者

① 団体利用者（少年サッカー、少年野球）

② 一般利用者

(6) 公園利用者等

① 指定管理者（公園管理事務所の移転）

② 公園利用者（自然愛好家@雑木林等の既存樹木や流れのある環境での工事）

③ 公園利用者（桜愛好家@桜山での工事）

④ 近隣住民（公聴会、新スタジアム建設・稼働に伴う騒音、交通渋滞の増など）

5月16日 平原副市長説明

三ツ沢公園球技場（ニッパツ三ツ沢球技場）は、プロやアマチュアによるサッカーやラグビーの試合が数多く開催され、多くの市民の皆様にご利用されています。

一方、現在の球技場は建設から58年が経過して老朽化が進むとともに、観客席に屋根が無く、Jリーグのスタジアム基準を満たしていないなどの課題があることから、本市では球技場の改修やこれに伴う公園の再整備に向けた検討を進めてきました。

そこで今回、三ツ沢公園球技場の再整備に向けた検討状況と今後の進め方についてご報告します。

1 三ツ沢公園球技場（ニッパツ三ツ沢球技場）の現状



三ツ沢公園 種別：運動公園 所在地：神奈川県三ツ沢西町3-1
公園面積：約28ha

- ・建設から約60年経ち、施設の老朽化が進行。
(バリアフリー化や設備の充実化等の必要性)
- ・観客席への屋根かけ等、Jリーグのスタジアム基準を満たしていない。
- ・現時点で球技場の利用可能日数が限界に近く、今後の更なる需要増にも対応していく必要がある。
(2022年度よりラグビーチームのキャノンイーグルスが本市をホストエリアとして、当球技場で公式戦を行う予定)

【参考1】主な公園施設

A	三ツ沢公園球技場 (ニッパツ三ツ沢球技場)	1949(昭和24)年 第4回国民体育大会会場として開設
B	陸上競技場	1964(昭和39)年 東京オリンピックのサッカー競技を開催
C	補助陸上競技場	1981(昭和56)年 全国高等学校総合体育大会を開催
D	テニスコート	1993(平成5)年 Jリーグを開催(収容人数約1.5万人に増築)
E	自由広場	2003(平成15)年 ラグビートップリーグを開催
F	青少年野外活動センター	
G	公園管理センター	
H	馬術練習場	
I	戦没者慰霊塔	

【参考2】三ツ沢公園の沿革

1949(昭和24)年	第4回国民体育大会会場として開設
1964(昭和39)年	東京オリンピックのサッカー競技を開催
1981(昭和56)年	全国高等学校総合体育大会を開催
1993(平成5)年	Jリーグを開催(収容人数約1.5万人に増築)
2003(平成15)年	ラグビートップリーグを開催

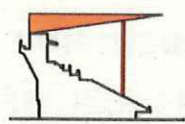
【参考3】本球技場を利用するスポーツチーム

Jリーグ	横浜FC/横浜F・マリノス/Y.S.C.C横浜
なでしこリーグ	日体大FIELDS横浜/ニッパツ横浜シーガルズ
ラグビートップリーグ	キャノンイーグルス

2 これまでの検討の流れ

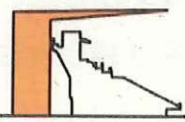
(1) 既存のメインスタンドへの屋根かけ

① 本体に屋根のみをかける方法



・既存のメインスタンドは昭和39年に竣工した築58年の建築物であり、構造的に屋根のみをかけることは法令上不可となります。

② 別構造で屋根をかける方法



・既存のメインスタンドと別構造であっても機能的に一体性を有するため、現行法令に適合していない箇所の改修が必要となります。
・また、本体の老朽化が進んでいる中で、近い将来に建て替えが必要となるため、無駄が多く非効率な方法となります。

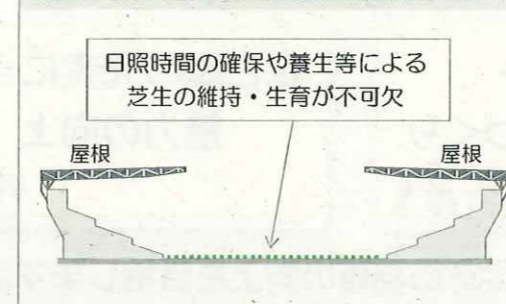
(2) メインスタンドの建て替え（現位置での建て替え）



- ・メインスタンドを建て替える場合、Jリーグのスタジアム基準により、全ての観客席への屋根かけが必要となります。
- ・全ての観客席に屋根をかける形式で建て替える場合、芝生の生育環境への配慮から年間の利用可能日数が現状より半減することになります。

⇒これにより、プロスポーツチームのみならずアマチュア等の市民利用にも大きな影響をきたし、市民がスポーツに関わる機会を大きく減少させることとなります。

【参考4】建て替え後の球技場の断面イメージ



【参考5】フィールドの使用日数の比較（2020年度：本球技場/他都市事例）

三ツ沢公園球技場	94
パナソニックスタジアム吹田	35
ノエビアスタジアム神戸	62
ユアテックスタジアム仙台	51

利用可能日数の減少は試合開催等に大きな影響

- ・現在の球技場の利用状況を維持するためには、隣接する陸上競技場内のフィールドに振り替える検討なども必要となりますが、現在の陸上競技場の利用も大変多く、実際の対応は難しいと考えられます。
- ・その他、工事中におけるJリーグ等の開催運営の対応 など

メインスタンドの屋根かけ及び現位置での建て替えは課題が大きく対応が困難

(3) 公園内の別位置での建設（既存の球技場は当面存置）



- ・既存の公園施設への影響と対応策
- ・周辺地域への影響 などの検討が必要になります。

時を重ね築き上げてきた公園の歴史 X 社会状況等の変化による新たな視点 → 新たな三ツ沢公園の再整備へ

3 三ツ沢公園の再整備について

スポーツ振興の視点

- ・スポーツには、心身の健康づくりや競技力向上、地域コミュニティ・経済の活性化など、市民の暮らしをより豊かにするための様々な意義や価値があります。
- ・トップスポーツチーム等と連携し、スポーツ文化の発信力の強化や横浜のブランド力の向上を目指すとともに、市民のスポーツ実施率も高めていく必要があります。
- ・人口減少や少子高齢化が進む中、トップスポーツ施設を中核としたまちづくりにより、交流人口の増加や地域の賑わいづくりなどを図っていく必要があります。

三ツ沢公園の魅力

- ・オリンピックや国体などの様々な大会を開催してきた歴史のある三ツ沢公園を、本市のスポーツシーンを象徴する財産として次世代にも着実に継承していく必要があります。
- ・多くの緑や花とふれあいながら、地域の方々と憩い、交流・活動できる三ツ沢公園を、これからも多様な人や世代に愛される施設として維持・充実していく必要があります。

公園の新たな魅力・機能の向上

- ・近年の様々な社会変化やニーズの多様化などを踏まえ、優れたノウハウやアイデアを持った多様な主体とこれまで以上に連携し、民間事業者によるサービスの向上や資金の活用など、公民連携の取組を推進する必要があります。
- ・近年頻発する大きな災害に備え、隣接する市民病院との連携も視野に、防災・減災・避難時の対応を整える必要があります。

スポーツ都市・横浜の実現へ

公園から横浜の暮らしとまちの質を高めていく

三ツ沢公園の再整備に向けた基本的な考え方(案)

■再整備の目的(骨格)

スポーツ振興の
環境整備



健康増進・
地域の賑わいづくり



花と緑の充実による
魅力の向上



災害拠点としての
機能強化



- ・三ツ沢公園の持つ歴史や魅力を継承し、さらにその価値の向上を目指します。
- ・サッカーやラグビーなど、近年一層高まる球技場利用の需要への対応を図ります。
- ・公園内の多様な利用や地域住民の親しみ・賑わいを生み出し、市民がまた訪れたいと思える公園をつくります。
- ・人々を惹きつける公園を整備することで市内の回遊性を高め、地域のコミュニティや経済の活性化に繋げていきます。

■取組の方向性

- (1) 新たな球技場の建設の検討を進めます。
- (2) 新球技場の建設とともに、老朽化した他の公園施設のリニューアルについても検討を進めていきます。

■主な検討の視点

- ① 球技場の整備や維持管理を目的とした **公民連携の推進** (民間事業者との連携や収益施設の導入等)
- ② 建築物の用途や高さ等にかかる **法的制限への対応**
- ③ 球技場整備に伴い、**影響を受ける施設の機能の代替策** (補助陸上競技場/第2テニスコート/自由広場/青少年野外活動センター等)
- ④ 老朽化が進む **桜山の再生及び新たな桜の名所づくり、豊かな緑の継承**
- ⑤ スポーツイベント開催時の交通誘導等、**周辺地域に対する影響への対応** など

■配置(案)



4 今後の進め方(市民意見募集の実施)

- ・このたび整理した三ツ沢公園の再整備に向けた基本的な考え方(案)について、今後、夏頃を目途に市民意見募集を行います。
- ・地域住民や公園利用者、スポーツ関係団体など、市民の皆様のご意見をお聞きしながら、引き続き検討を進めていきます。

5月23日 市長説明

三ツ沢公園球技場（ニッパツ三ツ沢球技場）は、プロやアマチュアによるサッカーやラグビーの試合が数多く開催され、多くの市民の皆様に親しまれています。

一方、現在の球技場は建設から58年が経過して老朽化が進むとともに、観客席に屋根が無く、Jリーグのスタジアム基準を満たしていないなどの課題があることから、本市では球技場の改修やこれに伴う公園の再整備に向けた検討を進めてきました。

そこで今回、三ツ沢公園球技場の再整備に向けた検討状況と今後の進め方についてご報告します。

1 三ツ沢公園球技場（ニッパツ三ツ沢球技場）の現状



三ツ沢公園 種別：運動公園 所在地：神奈川区三ツ沢西町3-1
公園面積：約28ha

- ・建設から約60年経ち、施設の老朽化が進行。
(バリアフリー化や設備の充実化等の必要性)
- ・観客席への屋根かけ等、Jリーグのスタジアム基準を満たしていない。
- ・現時点で球技場の利用可能日数が限界に近く、今後の更なる需要増にも対応していく必要がある。
(2022年度よりラグビーチームのキャノンイーグルスが本市をホストエリアとして、当球技場で公式戦を行う予定)

【参考1】主な公園施設

A	三ツ沢公園球技場 (ニッパツ三ツ沢球技場)
B	陸上競技場
C	補助陸上競技場
D	テニスコート
E	自由広場
F	青少年野外活動センター
G	公園管理センター
H	馬術練習場
I	戦没者慰霊塔

【参考2】三ツ沢公園の沿革

1949(昭和24)年	第4回国民体育大会会場として開設
1964(昭和39)年	東京オリンピックのサッカー競技を開催
1981(昭和56)年	全国高等学校総合体育大会を開催
1993(平成5)年	Jリーグを開催(収容人数約1.5万人に増築)
2003(平成15)年	ラグビートップリーグを開催

【参考3】本球技場を利用するスポーツチーム

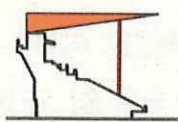
Jリーグ	横浜FC/横浜F・マリノス/Y.S.C.C 横浜
なでしこリーグ	日体大FIELDS横浜/ニッパツ横浜シーガルズ
ラグビートップリーグ	キャノンイーグルス



2 これまでの検討の流れ

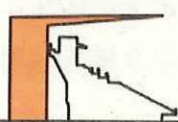
(1) 既存のメインスタンドへの屋根かけ

① 本体に屋根のみをかける方法



・既存のメインスタンドは昭和39年に竣工した築58年の建築物であり、構造的に屋根のみをかけることは法令上不可となります。

② 別構造で屋根をかける方法



・既存のメインスタンドと別構造であっても機能的に一体性を有するため、現行法令に適合していない箇所の改修が必要となります。
・また、本体の老朽化が進んでいる中で、近い将来に建て替えが必要となるため、無駄が多く非効率な方法となります。

(2) メインスタンドの建て替え（現位置での建て替え）

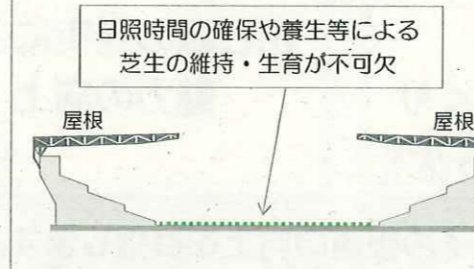


・メインスタンドを建て替える場合、Jリーグのスタジアム基準により、全ての観客席への屋根かけが必要となります。

・全ての観客席に屋根をかける形式で建て替える場合、芝生の生育環境への配慮から年間の利用可能日数が現状より半減することになります。

⇒これにより、プロスポーツチームのみならずアマチュア等の市民利用にも大きな影響をきたし、市民がスポーツに関わる機会を大きく減少させることとなります。

【参考4】建て替え後の球技場の断面イメージ



【参考5】フィールドの使用日数の比較（2020年度：本球技場/他都市事例）

三ツ沢公園球技場	94
パナソニックスタジアム吹田	35
ノエビアスタジアム神戸	62
ユアテックスタジアム仙台	51

利用可能日数の減少は試合開催等に大きな影響

・現在の球技場の利用状況を維持するためには、隣接する陸上競技場内のフィールドに振り替える検討なども必要となりますが、現在の陸上競技場の利用も大変多く、実際の対応は難しいと考えられます。

・その他、工事中におけるJリーグ等の開催運営の対応 など

メインスタンドの屋根かけ及び現位置での建て替えは課題が大きく対応が困難

(3) 公園内の別位置での建設（既存の球技場は当面存置）



・既存の公園施設への影響と対応策

・周辺地域への影響 などの検討が必要になります。

時を重ね築き上げてきた公園の歴史 X 社会状況等の変化による新たな視点 ▶ 新たな三ツ沢公園の再整備へ

3 三ツ沢公園の再整備について

スポーツ振興の視点

- ・スポーツには、心身の健康づくりや競技力向上、地域コミュニティ・経済の活性化など、市民の暮らしをより豊かにするための様々な意義や価値があります。
- ・トップスポーツチーム等と連携し、スポーツ文化の発信力の強化や横浜のブランド力の向上を目指すとともに、市民のスポーツ実施率も高めていく必要があります。
- ・人口減少や少子高齢化が進む中、トップスポーツ施設を中核としたまちづくりにより、交流人口の増加や地域の賑わいづくりなどを図っていく必要があります。

三ツ沢公園の魅力

- ・オリンピックや国体などの様々な大会を開催してきた歴史のある三ツ沢公園を、本市のスポーツシーンを象徴する財産として次世代にも着実に継承していく必要があります。
- ・多くの緑や花とふれあいながら、地域の方々と憩い、交流・活動できる三ツ沢公園を、これからも多様な人や世代に愛される施設として維持・充実していく必要があります。

公園の新たな魅力・機能の向上

- ・近年の様々な社会変化やニーズの多様化などを踏まえ、優れたノウハウやアイデアを持った多様な主体とこれまで以上に連携し、民間事業者によるサービスの向上や資金の活用など、公民連携の取組を推進する必要があります。
- ・近年頻発する大きな災害に備え、隣接する市民病院との連携も視野に、防災・減災・避難時の対応を整える必要があります。

スポーツ都市・横浜の実現へ

公園から横浜の暮らしとまちの質を高めていく

三ツ沢公園の再整備に向けた基本的な考え方(案)

再整備の目的(骨格)

スポーツ振興の
環境整備



健康増進・
地域の賑わいづくり



花と緑の充実による
魅力の向上



災害拠点としての
機能強化



- ・三ツ沢公園の持つ歴史や魅力を継承し、さらにその価値の向上を目指します。
- ・サッカーやラグビーなど、近年一層高まる球技場利用の需要への対応を図ります。
- ・公園内の多様な利用や地域住民の親しみ・賑わいを生み出し、市民がまた訪れたいと思える公園をつくります。
- ・人々を惹きつける公園を整備することで市内の回遊性を高め、地域のコミュニティや経済の活性化に繋げていきます。

取組の方向性

- (1) **新たな球技場の建設の検討を進めます。**
- (2) 新球技場の建設とともに、**老朽化した他の公園施設のリニューアルについても検討を進めていきます。**

主な検討の視点

- ① 球技場の整備や維持管理を目的とした **公民連携の推進** (民間事業者との連携や収益施設の導入等)
- ② 建築物の用途や高さ等にかかる **法的制限への対応**
- ③ 球技場整備に伴い、**影響を受ける施設の機能の代替策** (補助陸上競技場/第2テニスコート/自由広場/青少年野外活動センター等)
- ④ 老朽化が進む **桜山の再生及び新たな桜の名所づくり、豊かな緑の継承**
- ⑤ スポーツイベント開催時の交通誘導等、**周辺地域に対する影響への対応** など

配置(案)



4 今後の進め方(市民意見募集の実施)

- ・このたび整理した三ツ沢公園の再整備に向けた基本的な考え方(案)について、今後、夏頃を目途に市民意見募集を行います。
- ・地域住民や公園利用者、スポーツ関係団体など、市民の皆様のご意見をお聞きしながら、引き続き検討を進めていきます。